基本的心理欲求支援が欲求充足を介して友人関係評価に及ぼす影響

—制御焦点に着目して—

○三和 秀平^{1,3}・外山 美樹^{2,3}・肖 雨知^{2,3}・長峯 聖人^{2,3}・湯 立^{2,3}・相川 充^{2,3}

(関西外国語大学¹・筑波大学²・教育テスト研究センター³)

キーワード：制御焦点，基本的心理欲求，友人関係

Basic psychological needs in friendships: Focus on regulatory focus

Shuhei Miwa^{1,3}, Miki Toyama^{2,3}, Yuzhi Xiao^{2,3}, Masato Nagamine^{2,3}, Li Tang^{2,3} and Atsushi Aikawa^{2,3}

(Kansai Gaidai University¹, University of Tsukuba², Center for Research on Educational Testing³)

Key Words : regulatory focus, basic psychological needs, friendship

問題と目的

自己決定理論 (Deci & Ryan, 2000) は、人の基本的心理欲求として自律性への欲求、関係性への欲求、有能さへの欲求を想定し、これらの欲求充足がウェルビーイングの向上につながることを提唱している。そして、欲求を支える支援を受けることで欲求が充足され、ポジティブな結果につながるとしている。Hui, Molden, & Finkel (2013) は恋人関係における基本的心理欲求支援と関係性に関わるウェルビーイングの関連について、制御焦点 (Higgins, 2000) が調整していることを明らかにし、促進焦点の個人は自律性支援を受けることで、防止焦点の個人は関係性支援を受けることでそれぞれ関係性に関わるウェルビーイングの向上につながることを示した。これらの結果について、促進焦点の個人は、他者から提供される成長や達成に関わる機会に敏感であるため、自身の目標を追求することを支援してくれる自律性支援を受けたときにポジティブな評価につながったと考えられる。一方で、防止焦点は相互依存的な考えと関連するため (e.g., Lee, Aaker, & Gardner, 2000)，防止焦点の個人は関係性の維持を重視しており、関係性の支援を受けた時にポジティブな評価につながったと考えられる。

このように、同じ支援を受けた際にも、受け手の制御焦点によってその効果が異なることが想定される。ただし、Hui, et al. (2013) では欲求支援 (充足) とウェルビーイングの関係のみが検討されており、欲求支援→欲求充足→ウェルビーイングの媒介については検討されていない。また恋人関係に限定しているが、友人関係でも同様の結果が得られるのか検討の余地がある。そこで、本研究では媒介の過程における制御焦点の調整の効果を、友人関係で検討する。仮説は以下の2つである。仮説1：促進焦点の個人は、自律性支援を受けたときに自律性欲求が充足され、友人関係をポジティブに評価する。仮説2：防止焦点の個人は、関係性支援を受けたときに関係性欲求が充足され、友人関係をポジティブに評価する。

方法

調査協力者 大学生223名 (男性114名、女性107名、不明2名)、平均年齢は19.69歳 ($SD=1.20$) であった。

使用尺度 ①制御焦点：PPFS邦訳版 (尾崎・唐沢, 2011) を用いた (16項目7件法)。得点化においては、促進焦点の得点から防止焦点の得点を引き、相対的制御焦点の得点を算出した。②欲求支援：IBQ日本語版 (肖・外山, 2018) の欲求支援行動の受領に関する項目を用いた (12項目7件法)。なお、教示文にて友人関係に限定して回答を求めた。③欲求充足：BPNSFS日本語版 (Nishimura & Suzuki, 2016) の欲求充足に関する項目を用いた (12項目5件法)。④関係評価：Hui et al. (2013) を参考に作成した項目を使用した (3項目7件法)。項目の例は「私は、友人との関係に満足している」などである。なお、本分析には基本的心理欲求として自律性と

関係性を扱った。

結果と考察

欲求支援が欲求充足を介して関係評価に与える影響を制御焦点が調整するという調整媒介のモデルについて分析を行った。分析は各変数を中心化したうえで行った。自律性について分析する際には関係性支援を、関係性について分析する際には自律性支援をそれぞれ統制変数として投入した。分析の結果 (Table 1)、自律性支援と自律性充足の関連および関係性支援と関係性充足の関連をいずれも制御焦点が調整していた。そこで、独立変数に $\pm 1SD$ の値をそれぞれ代入し、制御焦点が $\pm 1SD$ ($-1SD$ を防止焦点、 $+1SD$ を促進焦点とする) の場合の単純傾斜を算出した (Figure 1)。その結果、いずれも防止焦点が強いほど欲求支援から欲求充足のパスが大きくなることが示された。また、ブートストラップ法 (ブートストラップ標本数 2000) による間接効果の検定の結果、防止焦点において関係性支援が関係性充足を介して関係評価と関連する間接効果が有意となった。

以上より仮説2は支持され、仮説1は支持されなかった。防止焦点においては自律性支援および関係性支援ともに欲求充足と関連していた。本研究では特定の恋人や親友ではなく、一般的な友人を想定した。そのため、成長や達成の機会に敏感な促進焦点よりも関係性の維持を重視する防止焦点の方が支援を受けたと感じやすかったのかもしれない。

Table 1 調整媒介分析の結果

	自律性支援→自律性充足→関係評価				関係性支援→関係性充足→関係評価			
	on 自律性充足				on 関係性充足			
	B	SE	p	95% IC	B	SE	p	95% IC
欲求支援	.178	.107	.098	-.027 .388	.523	.094	.000	.339 .707
制御焦点	.039	.006	.000	.027 .050	.024	.005	.000	.014 .034
欲求支援×制御焦点	-.013	.005	.012	-.023 -.003	-.015	.004	.001	-.023 -.006
	on 関係評価				on 関係評価			
	B	SE	p	95% IC	B	SE	p	95% IC
欲求支援	.128	.108	.239	-.086 .342	.148	.112	.188	-.073 .368
欲求充足	.174	.069	.012	.038 .310	.265	.078	.001	.112 .418
制御焦点	.004	.007	.604	-.010 .017	.006	.006	.337	-.006 .018
欲求支援×制御焦点	-.002	.006	.721	-.013 .009	.004	.006	.532	-.008 .016
欲求充足×制御焦点	.001	.006	.927	-.011 .012	-.008	.007	.254	-.022 .006
間接効果の検定	indirect effect				indirect effect			
	SE	95% IC	SE	95% IC	SE	95% IC	SE	95% IC
防止焦点 ($-1SD$)	.052	.047	-.021 .167	.237	.097	.074	.455	
促進焦点 ($+1SD$)	.008	.028	-.039 .074	.067	.056	-.011 .214

注1) * $p < .01$, ** $p < .05$, *** $p < .001$

注2) 上段が防止焦点 ($-1SD$)、下段が促進焦点 ($+1SD$) の結果を表す

注3) 統制変数は省略した

注4) 括弧内は媒介変数を投入する前の値を表す

注5) 太字は交互作用が有意だった箇所を示す

Figure 1 調整媒介分析の結果